

科目名：生理学〈含、口腔生理学〉 (Physiology <contain, Oral Physiology >) 履修年次/時期：1 年次 後期 授業形態：講義 担当教員：前畑 洋次郎 (実務経験あり)		必 2 単位
学修目的	生理学は臨床医学を理解する上の基礎的知識として「からだの構造と働き」を学ぶ学問である。口腔生理学ではとくに歯および口腔の機能、口腔感覚、咬合と咀嚼、嚥下と嘔吐、発声機構、唾液のはたらきなどについて学び、全身の健康維持と口腔機能との関わりについて理解する。 DP1-(1)、2-(1)、2-(2)およびCP 2、3、4に関連する。科目 NO. S1B05H13	
到達目標	【1 編 組織と発生】 ① 第 1 章「細胞と組織」：身体の階層的構造において、細胞、組織、器官系、器官系の成り立ちについて説明できる。 【2 編 構造と機能】 ① 第 2 章「筋と運動」：骨格筋の収縮のしくみと運動反射の特徴について説明できる。 ② 第 3 章「消化と吸収」：食物の消化と吸収の意義を理解し、消化器系の構成、構造と機能について説明できる。 ③ 第 4 章「循環」：循環機能の意義を理解し、循環器系の構造と機能、血液の成分とその機能について説明できる。 ④ 第 5 章「神経系」：情報伝達としての神経の役割を理解する。 ⑤ 第 6 章「呼吸」：呼吸の意義を理解し、呼吸器系の構造と機能について説明できる。 ⑥ 第 7 章「感覚」：内・外の環境変化を受容し、中枢神経に伝えるしくみを理解する。 ⑦ 第 8 章「排泄」：尿の生成と排泄の意義について理解し、腎臓の基本構造と機能について説明できる。 ⑧ 第 10 章「内分泌」：情報伝達としての内分泌の役割を理解する。 【口腔生理学】 ① 第 3 章「歯と口腔の感覚」：歯と口腔の感覚の伝導のしくみについて説明できる。 ② 第 4 章「味覚と嗅覚」：味覚と嗅覚の伝導のしくみについて説明できる。 ③ 第 5 章「咬合と咀嚼・吸綴」：口腔の運動調節のしくみを理解し、顎反射について説明できる。 ④ 第 6 章「嚥下と嘔吐」：嚥下と嘔吐のしくみについて説明できる。 ⑤ 第 7 章「発声」：声帯の構造と発声のしくみについて説明できる。 ⑥ 第 8 章「唾液」：唾液の成分と機能、分泌調節について説明できる。	
授業概要	人体の生命維持に重要な器官系を取り上げ、その構造と機能を個々に修得し、加えて個々の器官系間での連携を生命活動として統合的に理解できるよう解説する。さらに、口腔生理学において、口腔内機能が生命活動と深く結びついていることを示し、健康維持において口腔機能が如何に重要であるか解説する。	
評価方法	定期試験 90% 授業の参加態度 10% *練習問題は到達目標の到達度を自覚させる目的で各講義時間内に実施する。また、練習問題で間違った箇所は到達目標に達成していないところなので、理解しないまま過ぎないように自学自習(予習・復習)を促し、レポートを提出することで知識が確実に積み重なるようにする。 試験に対するフィードバックは掲示で行う	
予習・ 復習時間	【予習】2 時間 【復習】2 時間	
教科書	1. 「歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1」生理学 医歯薬出版 2. 「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能」口腔生理学 医歯薬出版	
参考書	配布資料, 「イラストでわかる歯科医学の基礎」永末書店	

オフィスアワー	前畑 月～金曜日 16:30-17:00 場所未定・前畑研究室 maehata@kdu.ac.jp
連絡先	出張などでオフィスアワーに不在の場合はメールを入れて下さい。